

## 令和5年度奈良県結核対策推進協議会 議事録

日時：令和5年11月16日(木) 11:00～12:00

場所：Web 開催

出席者：

筒井会長（奈良県福祉医療部医療政策局長）、前之園委員（奈良県医師会理事）

平林委員（奈良医療センター院長）、笠原委員（奈良県立医科大学感染症内科学講座教授）

山本委員（奈良県立医科大学呼吸器内科学講師）、前田委員（奈良県総合医療センター副院長）

鈴木委員（奈良市保健所長）、水野委員（奈良県郡山保健所長）

関係者：

玉置医師（奈良医療センター副院長）

概要：事務局から奈良県における結核の現状について報告。奈良県感染症予防計画（結核分）の改定案について承認された。また、奈良県保健医療計画（結核分）改定案についても報告された。

### 議題1：奈良県における結核対策について

資料1に基づき、奈良県より説明。

（奈良医療センター 玉置医師）

当院では、コホート検討会において顔の見える関係を構築し、行政と連携して診療を行っている。また、外国人の患者は奈良県では比較的少ないが、現在東南アジア国籍20代患者が2名入院している。その他はやはり高齢者が多く90歳代3名、80歳代7名、70歳代4名、あとはそれ以外の年代の方だが、20歳代2名が外国人であり外国人患者は増えている印象。特に高齢者と外国人は発見が遅れることが多い。その他、退院困難事例が課題であり、奈良県内で連携して診療を行うことが必要である。家族内や職場の感染もあり、今年はやや増加傾向にあるのではないかという印象であり、引き続き注意して動向を見る必要があると考えている。今後も奈良県や他医療機関と連携し診療を行っていきたい。

（平林委員）

玉置医師から当院の現状を報告してもらったが、特に「連携」という点において、治療が完了した、あるいは入院治療を要しない状態まで回復した患者を、他の医療機関や介護事業所に受入を要請することについて協力をお願いしたいと考えている。

### 議題2：奈良県感染症予防計画の改正について

資料2・3・4・5に基づき、奈良県より説明。

（平林委員）

今回の奈良県感染症予防計画（案）では、これまで感染症予防計画本文の参考資料としていたものを本文中に取り上げていただき、奈良県が結核医療を重要視していることに対し、診療

を担う医療機関の長として、まずはお礼申し上げたい。

(資料5、8ページの稼働病床数について)結核医療の現状は、看護師人材確保等、病院経営上困難なことも多い中で、県内で唯一結核病床を有する病院として奈良県の意向に最大限協力したいと考えている。病床数については奈良県の考える最大の数字で当院は対応していきたい。

(奈良医療センター 玉置医師)

目標設定について、“結核罹患率”は最もわかりやすく適切。その他“DOTS 実施率”“治療失敗中断脱落割合”などもよい指標だが、一方、“早期発見”については、診断までに時間を要すること、また、早期受診や、発生届の提出について啓発活動は必要だが数値目標にはしづらいため、今回目標設定から除外されたのは妥当と考える。その点については、塗抹陽性例を中心とした早期発見に県をあげて取り組むことを本文中に記載されたことは良かったと思う。

(筒井会長)

この計画で承認いただけるか。

<全員異議なく承認>

(筒井会長)

承認いただけたのでこの計画で進めたい。なお、併せて奈良県感染症対策連携協議会にも報告させていただく。

### 議事3：奈良県保健医療計画（案）について

資料6に基づき奈良県担当者より説明。

<委員からの意見なし>

(筒井会長)

現在、奈良県医療審議会においてお諮りしているところである。この案で進めさせていただく。

### 議事4：その他、奈良県感染症対策連携協議会について

資料7に基づき奈良県担当者より説明。

<委員からの意見なし>

(筒井会長)

この案で進めさせていただく。

(筒井会長)

議事進行に協力いただきありがとうございました。

議事1で平林委員、玉置医師から、結核医療における「連携」について、医療分野の他、介護分野との連携についてもご意見いただいた。今後は、県介護関係部局とも情報を共有していきたい。熱心に議論いただきありがとうございました。